

# 林業安全コラム

怖いのは 慣れた作業と その油断

## ○ 林業労働災害発生状況について

	H22年	H22年	H24年	H25年	24年比較	摘 要
死傷者数(人)	2,149	2,219	1,897	1,174	-164	25年8月末現在
死亡者数(人)	59	38	37	26	-1	25年10月7日現在

今年の林業労働災害の発生状況（速報）は、前年同時期に比べ死亡者数、死傷者数ともに減少していますが、これからの事業は降雪前の繁忙期を迎えることから、労働災害の増加が懸念されます。引き続き、積極的に安全衛生活動を実施していただき、労働災害防止に努めていただくようお願いいたします。

## ◇ 林業労働災害の発生時例について（類似災害防止のために！）

### 【事例1 10月某日】

この災害は、間伐作業中に発生したかかり木を放置したまま、その下方の木の伐倒をしていたところ、外れたかかり木が被災者を背後から直撃したものと推測。（目撃者なし）

【かかり木が発生した場合は、放置することなく速やかに処理すること。一時的に放置せざるを得ない場合は、危険が生ずるおそれのある場所に近付かないように、標識の掲示、縄張り等の措置を講ずること。】



### 【事例2 9月某日】

被災者は、伐倒したスギの木（直径30cm、長さ20～25m）にワイヤーを巻き付け、斜面上部の集材路に引き上げる作業をしていたが、邪魔になった伐根を避けるためスギ伐採木を元口から1.8m切り、再度引き上げたところ、巻き付けていたワイヤーがずれて外れ、伐倒木が被災者の顔面に当たったり被災したものの。

【ワイヤーを掛ける位置は、外れないよう十分な間隔をとること。また待避は、立木の後ろなどの適切な場所に避難すること。】



注：写真は災害と関係ありません

### 【事例4 10月某日】

被災者を含めた4名は、植栽事業予定地の測量作業（伐開班2名と測量班2名）に従事。被災者は伐開班として先頭でナタで目印をしながら切り進み、その後方から同僚が刈払機を用いて雑灌木を刈り払っていた。同僚が被災者の後方で直径5cm程度の雑木を刈り払っていたところ、同僚の方に倒れてきたため、後ずさりしながら倒木を避けるため反転したところ、刈払機の刈刃が前方で作業していた被災者の左膝裏側に接触し、動脈を切断したものの。

【刈払作業中は、作業員から5m以内を危険区域とし、他の作業員に接近しないように十分な間隔を保つこと。】



- ・ 10月に日本列島に接近した台風は、過去最多の6個となり、列島に大雨をもたらす一因となりました。
- ・ 今月は「職業能力開発促進月間」です。

林業労働対策室  
労働安全衛生班